

資 料 編

1. 「人」の交流

- (1) 転出者・転入者・・ 1
 - ・山形県の転入元別移動者数
 - ・山形県の転出先別移動者数
 - ・転出入者総数と宮城県への転出入者の推移（実数・度数）
 - ・山形県仙台市間の転出超過数と最近の転出入者数
- (2) 就業通学地別人口・・ 3
 - ・通勤通学者地人口
 - ・村山管内市町の宮城県への通勤通学者の推移
 - ・山形県の通勤通学総数と他県及び宮城県への通勤通学者数の推移
 - ・山形市から他県及び宮城県への通勤通学者数の推移
- (3) 移動手段・・ 4
 - ・交通機関別都道府県間流動表
 - ・東北域内の旅客流動
 - ・山形市から仙台市への交通手段
 - ・仙台市から山形市への交通手段
- (4) 観光客の動向・・ 6

2. 交通機関の動き

- (1) 道路（交通量）・・ 7
 - ・国道 48 号（関山）及び山形自動車道（笹谷 関沢）の日交通量推移
- (2) 高速バス・・ 7
 - ・仙台山形間的高速バス利用状況
 - ・高速バス輸送人員の推移
 - ・山形県仙台間的高速バスの運行状況

3. 「物」の交流

- (1) 市場産地別取扱量・・ 9
 - ・宮城県産総入荷量と総入荷数に占める宮城県産の割合（青果物・水産物）
 - ・宮城県産取扱総額と取扱総額に占める宮城県産の割合（青果物・水産物）
 - ・宮城県産取扱量上位 10 品目（青果物・水産物）
 - ・宮城県産取扱量の割合上位 10 品目（青果物・水産物）

4. 「サービス」の交流

- (1) 県外買物状況・・ 11
 - ・県外商店街利用者のうち仙台市での買物状況
 - ・仙台市の商店街に行く交通手段
 - ・仙台市の商店街に行く回数割合

(2) 大学入学者数	12
・山形県内高校出身者の進学先都道府県	
・山形県内大学入学者の出身地	
・山形県内高校出身者の進学先及び山形県内大学入学者の出身地の推移	
・就職者総数と宮城県への就職の割合の推移	
(3) 学都仙台単位互換ネットワーク	13
5. 仙山圏における過去の主な地震(観測震度5以上)	14
6. 山形市と仙台市の積雪量の比較(過去30年)	15
7. 交通インフラから見た仙山交流年表	16
8. 山形と仙台の交流についてのアンケート調査(予備調査)	18
9. 「仙山交流連携課題検討懇談会」について	24

1 「人」の交流

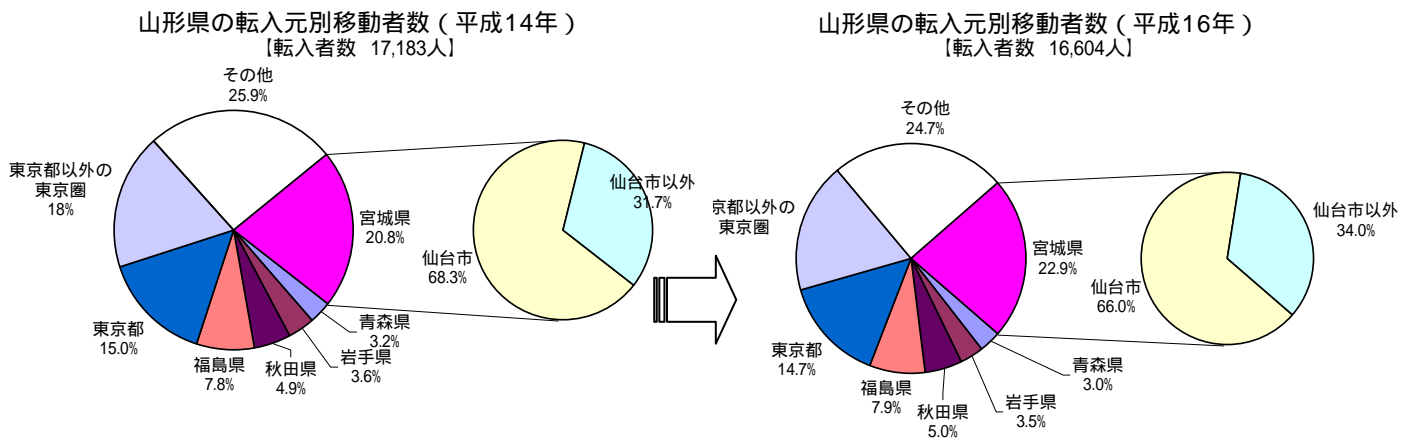
(1) 転出者・転入者

平成16年住民基本台帳人口移動報告によると、山形県への転入者総数は16,604人、転出者総数は20,222人で、都道府県別では、宮城県からの転入者、宮城県への転出者が最も多い。

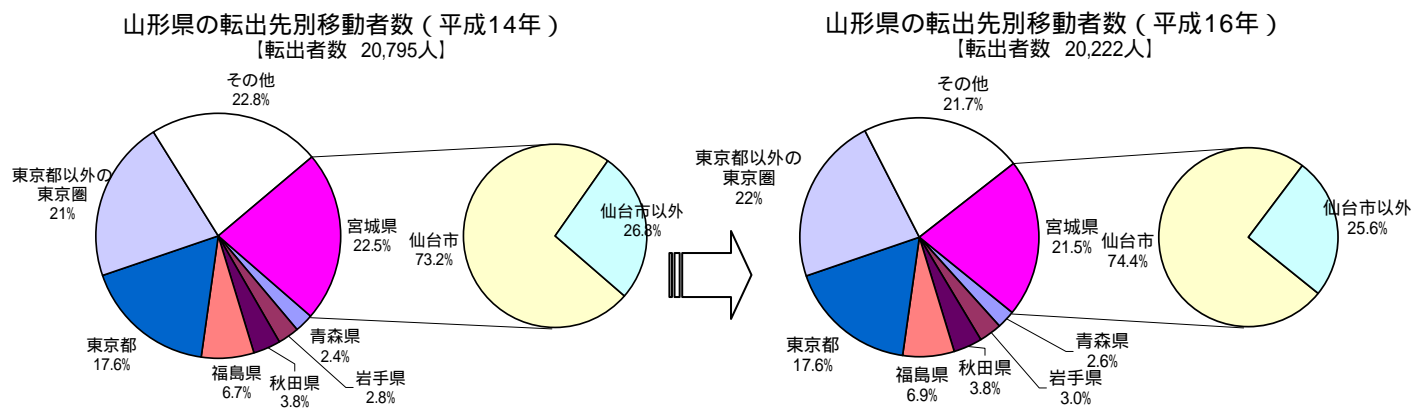
平成16年の宮城県からの転入者は3,797人で、平成2年の転出数を100とすると106.5となっている。一方、宮城県への転出者総数は4,346人で、同じく平成2年を100とすると、89.9となっている。

宮城県から山形県への転入者総数3,797人のうち、66.0%の2,507人は仙台市からの転入者であり、宮城県への転出者総数4,346人のうち74.4%の3,235人は仙台市への転出となっている。

【転入】

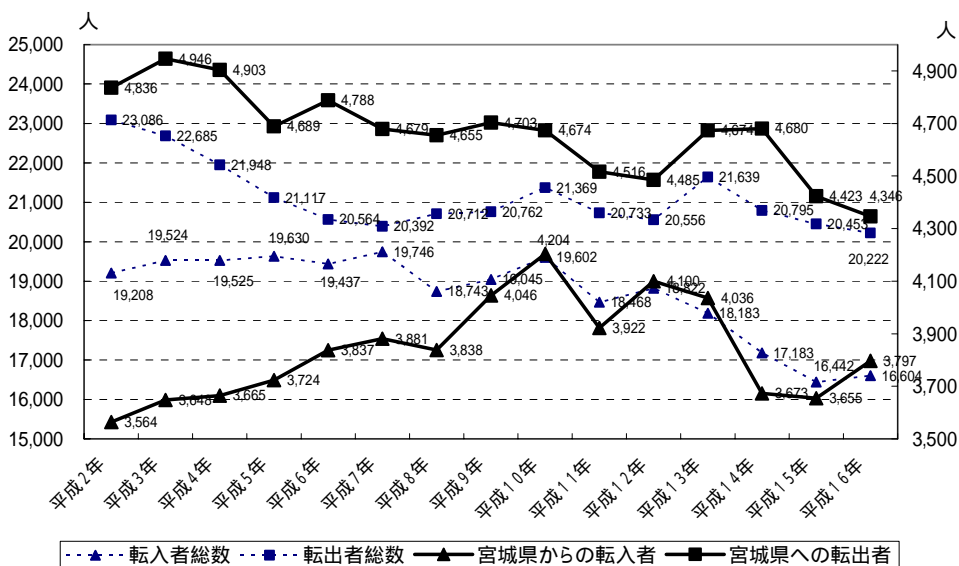


【転出】



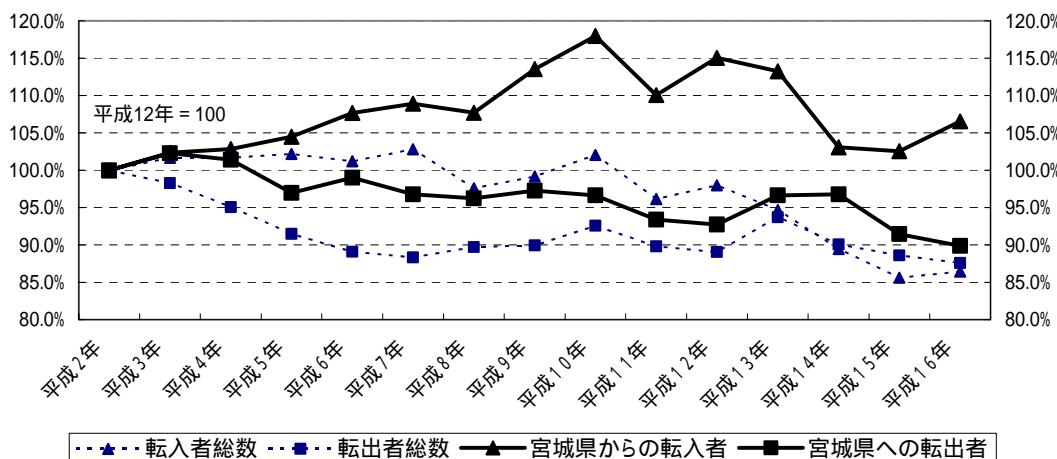
資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）
注）東京以外の東京圏とは、埼玉県、千葉県、神奈川県のみ

転出入者総数と宮城県への転出入者の推移（実数）



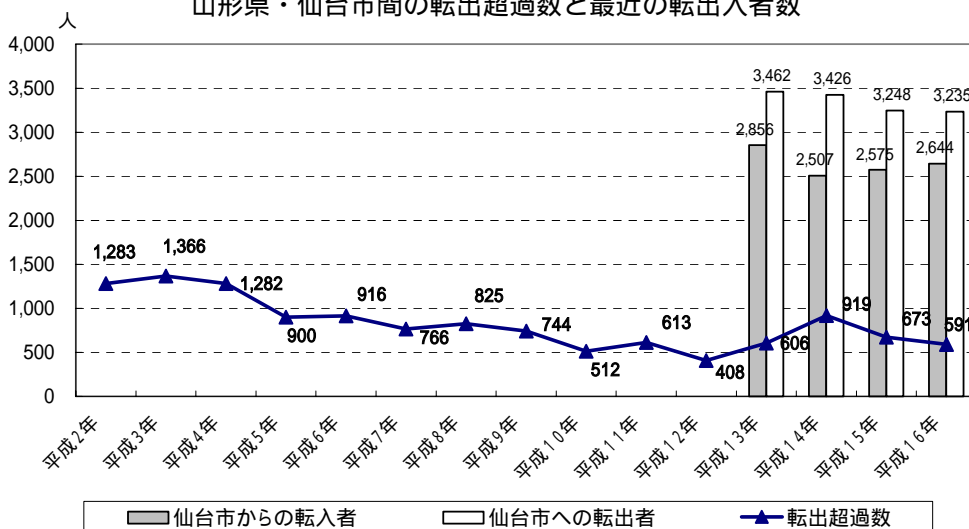
資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

転出入者総数と宮城県への転出入者数の推移（度数）



資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

山形県・仙台市間の転出超過数と最近の転出入者数



資料：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

(2) 就業通学地別人口

平成12年国勢調査によると山形県に常住する15歳以上の就業通学者(709,887人)のうち常住地以外への就業通学者の割合は25.3%で、県外への就業通学者の割合は0.8%である。県外への就業通学のうち最も多い都道府県は宮城県で、県外就業通学者全体の62.3%を占める。

村山地域市町村の宮城県への就業通学者は、山形市が最も多く、山形市に常住する15歳以上の全就業通学者のうち、約1.1%が宮城県へ就業通学している。

通勤通学者地人口(平成12年)

〔山形県〕

	総数	通勤者	通学者
山形県に常住する就業・就学者数	709,887	642,580	67,307
他県への通勤・通学	5,343 0.8%	3,938 0.6%	1,405 2.1%
うち宮城県への通勤・通学	3,330 0.5%	2,061 0.3%	1,269 1.9%

〔山形市〕

	総数	通勤者	通学者
山形市に常住する就業・就学者数	146,764	129,402	17,362
他県への通勤・通学	1,873 1.3%	1,139 0.9%	734 4.2%
うち宮城県への通勤・通学	1,557 1.1%	880 0.7%	677 3.9%
うち仙台市への通勤・通学	1,418 1.0%	755 0.6%	663 3.8%

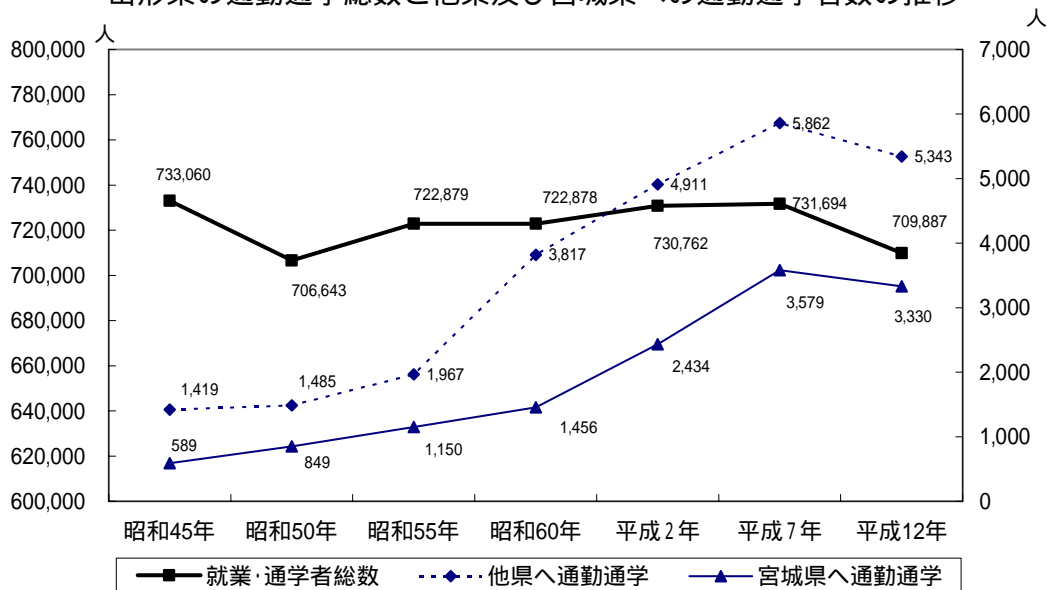
資料：国勢調査

村山管内市町の宮城県への通勤通学者の推移

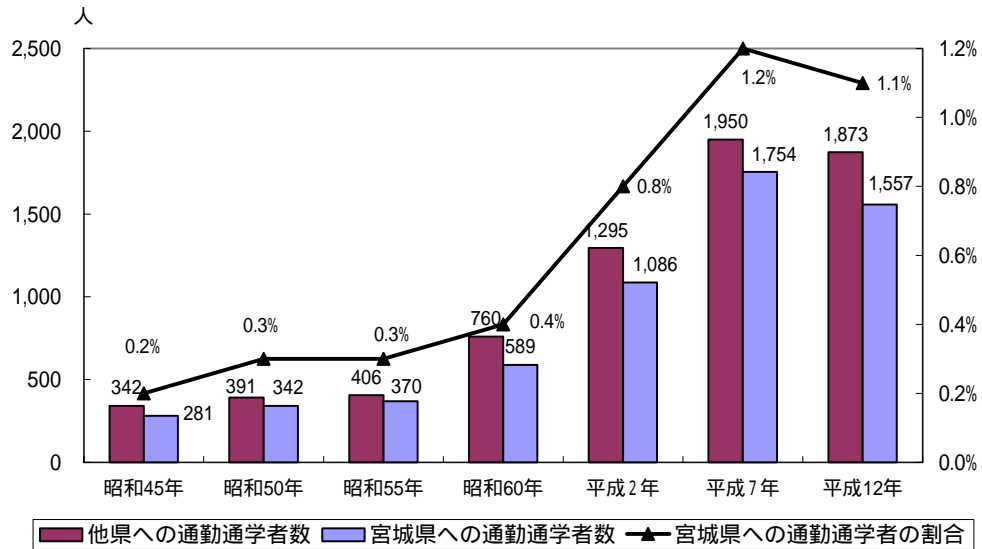
単位：人

	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年
村山地域	383	595	623	994	1,861	2,939	2,699
山形市	281	342	370	589	1,086	1,754	1,557
上山市	23	19	26	25	81	141	128
天童市	32	81	77	145	234	369	383
山辺町				12	32	72	77
中山町				11	13	44	57
寒河江市	10	26	28	31	69	151	130
河北町				16	18	40	43
西川町				17	11	18	10
朝日町					6	11	12
大江町					14	14	16
村山市		12	18	32	63	54	51

山形県の通勤通学総数と他県及び宮城県への通勤通学者数の推移



山形市から他県・宮城県への通勤・通学者数の推移



資料：国勢調査

(3) 移動手段

平成2年、平成7年及び平成12年に実施された全国幹線旅客純流動調査によると、山形・宮城県間の輸送機関は、山形発着ともに自動車での輸送が最も多い。

また、平成15年度に実施された旅客地域流動調査によると山形発では宮城着が4,966千人と東北6県中一番多いが、宮城発では、山形着が4,825千人、福島着9,689千人であり、福島について2番目となっている。

交通機関別都道府県間流動表

		山形県発		宮城県着	
		人数	割合	人数	割合
総数	平成12年	5,637	-	5,730	-
	平成7年	7,492	-	7,450	-
	平成2年	3,479	-	3,478	-
鉄道	平成12年	470	8.3%	506	8.8%
	平成7年	179	2.4%	142	1.9%
	平成2年	26	0.7%	29	0.8%
バス	平成12年	388	6.9%	371	6.5%
	平成7年	328	4.4%	323	4.3%
	平成2年	41	1.2%	33	0.9%
自動車	平成12年	4,779	84.8%	4,853	84.7%
	平成7年	6,984	93.2%	6,986	93.8%
	平成2年	3,412	98.1%	3,416	98.2%

資料：第1回～第3回 全国幹線旅客純流動調査(国土交通省)

東北域内の旅客流動(平成15年度)

(単位:千人)

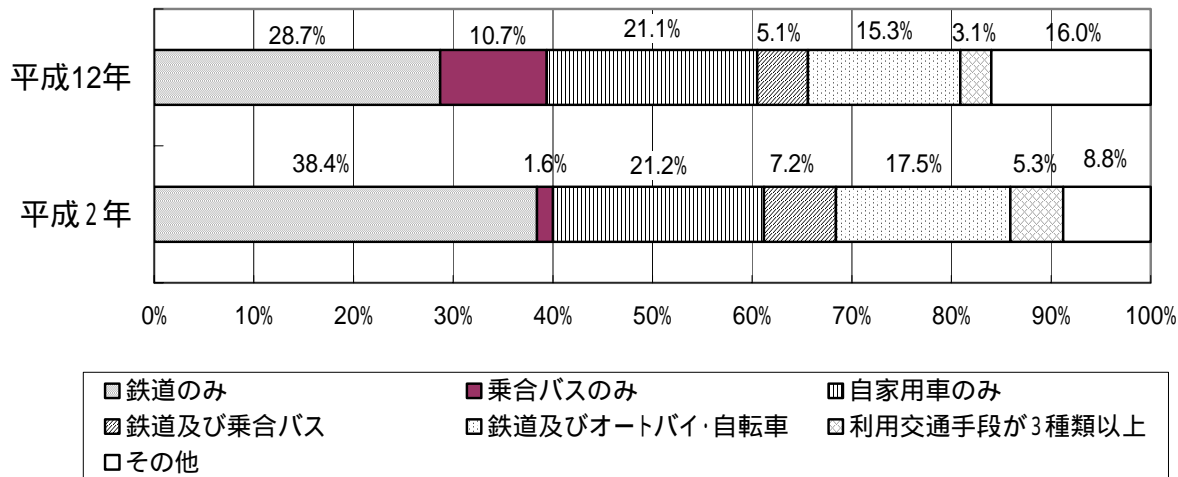
着	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島
青森	-	6,490	789	2,085	22	294
岩手	6,816	-	12,895	3,176	127	118
宮城	900	12,143	-	1,063	4,825	9,689
秋田	984	2,482	1,068	-	330	68
山形	21	159	4,966	302	-	2,119
福島	353	118	9,844	68	2,013	-

資料：旅客地域流動調査(平成17年6月)国土交通省東北運輸局

平成 12 年国勢調査によると就業・通学者の利用交通手段は、山形市から仙台市への就業・通学手段は「鉄道のみ」の割合が 28.7%で最も多いのに対して、仙台市から山形市への就業通学手段は「自家用車のみ」が 53.1%と割合が高い。

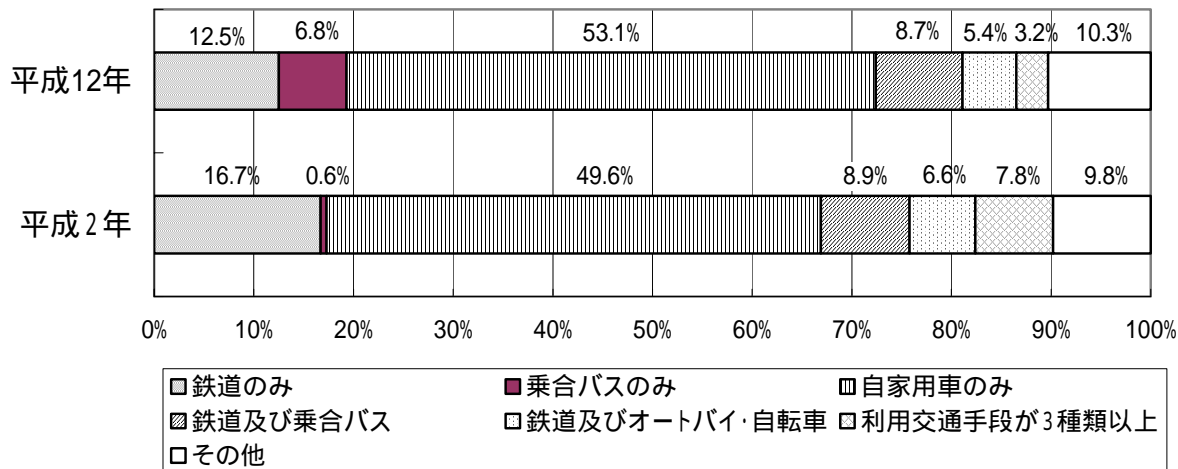
また平成 2 年と比べて平成 12 年では、「山形市から仙台市へ就業通学」、「仙台市から山形市へ就業通学」とともに乗合バスの利用割合が増え、鉄道の利用割合が減少している。

山形市 仙台市への交通手段



資料：国勢調査

仙台市 山形市への交通手段

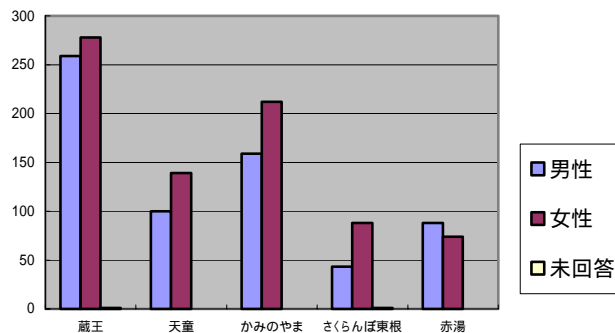


資料：国勢調査

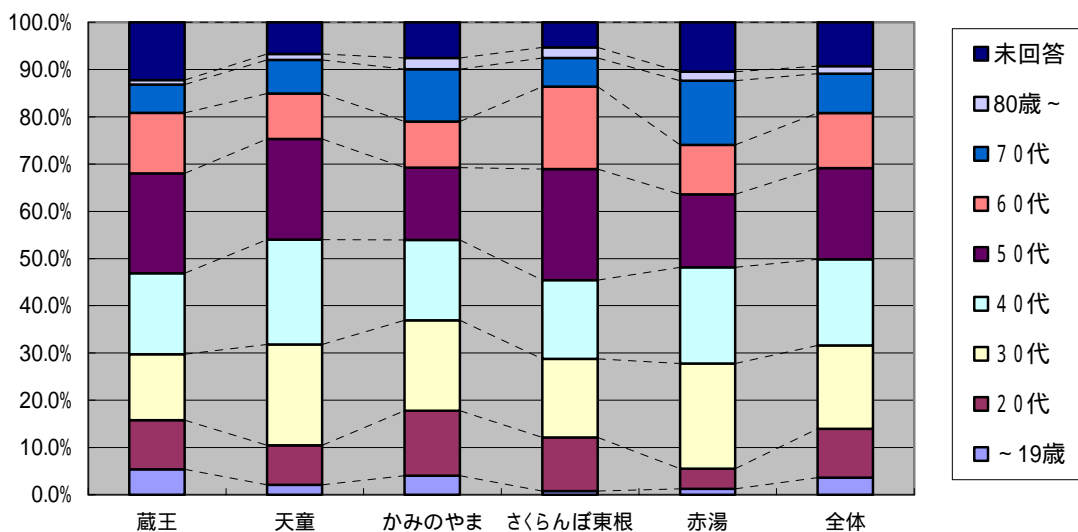
(4) 観光客の動向

環蔵王宿泊キャンペーンアンケート調査（H17. 7～9月実施、回答者数1,442名、山形県側抜粋）によれば、環蔵王の山形県側温泉地における宮城県からの宿泊客の割合は、全体で11.4%となっており、これより高い割合となっているのは、天童温泉(16.7%)とさくらんぼ東根温泉(14.4%)で、その他は、いずれも10%前後となっている。

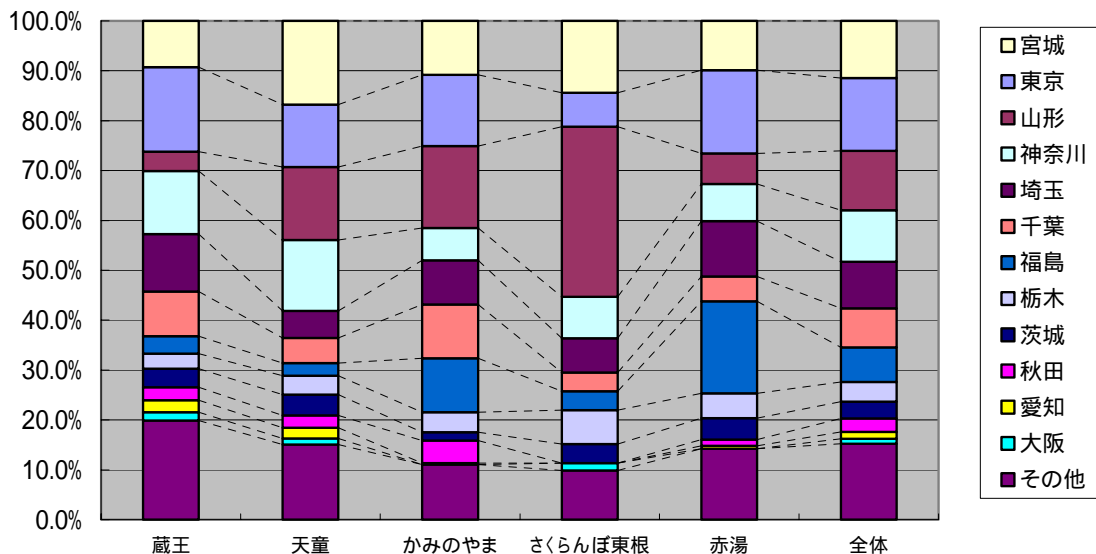
アンケート回答者数



宿泊客の年齢別割合



宿泊客の都道府県別割合

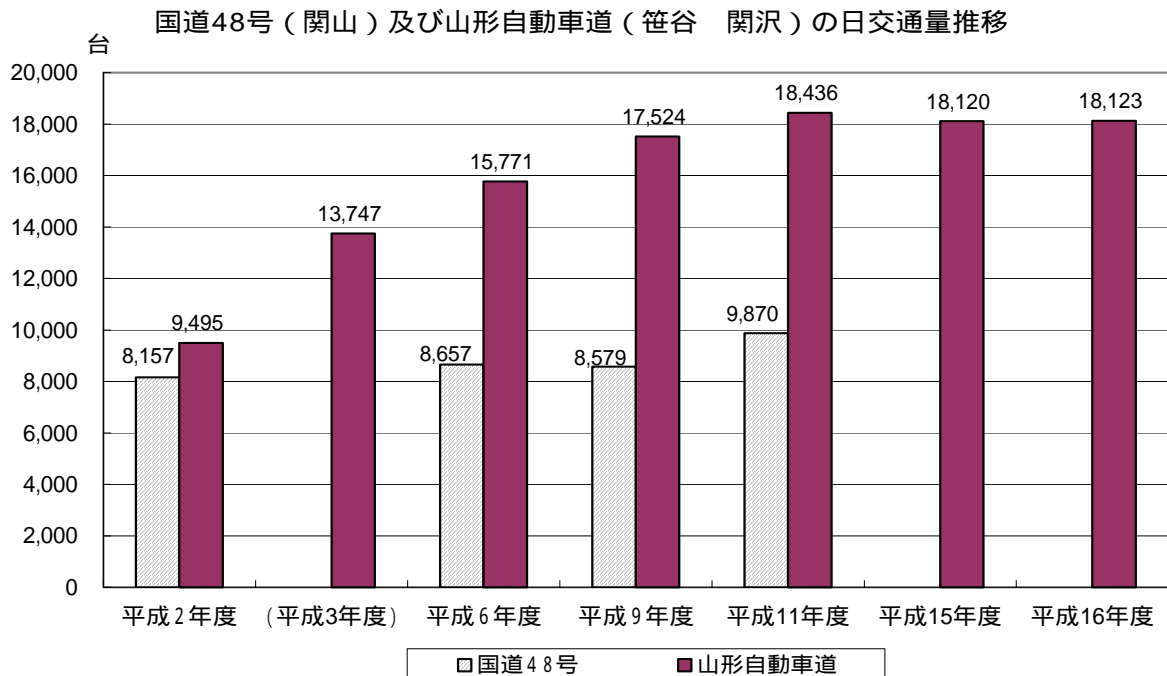


2 交通機関の動き

(1) 道路(交通量)

山形 - 仙台間を結ぶ主要な国道は、国道48号と国道286号(山形自動車道)で、国道286号(山形自動車道)は近年、日交通量1万8千台程度で推移している。

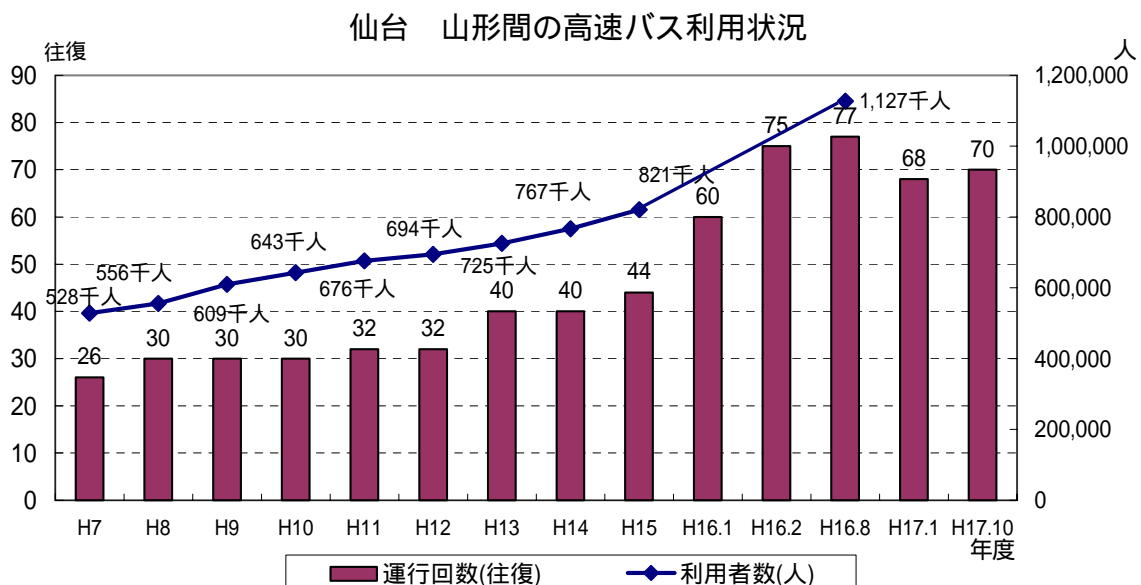
また、国道286号では、笹谷トンネルのみが開通していた平成2年度の交通量と比較して、山形道関沢IC - 山形北IC間が開通し、山形道が東北道と結ばれた平成3年度以降の交通量が増加している。



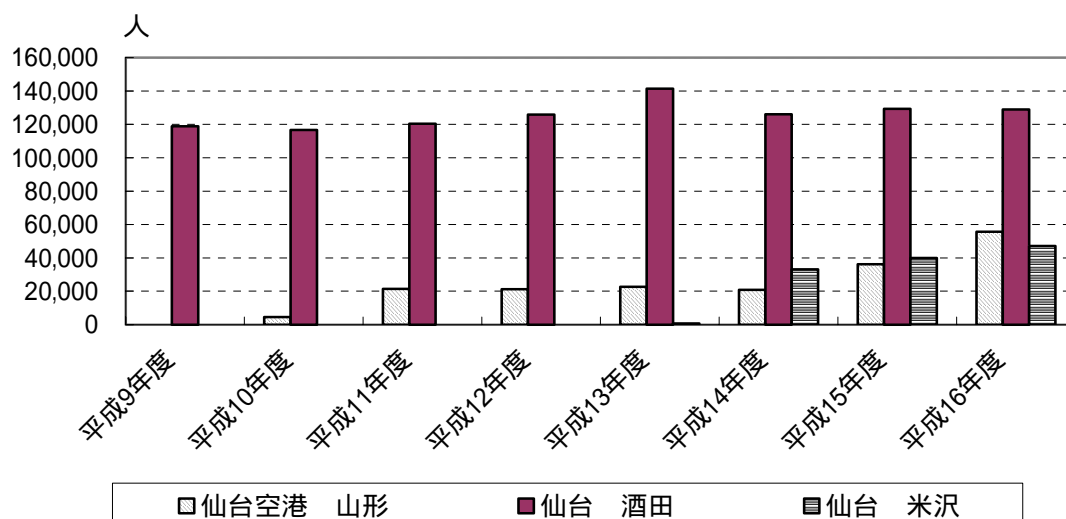
資料：国道48号・交通量調査(山形県)《観測地点：東根市関山》 / 山形自動車道・日本道路公団東北支社

(2) 高速バス

山形 - 仙台間の高速バスは平成17年10月から1日70往復運行しており、平成16年度では1日あたり3,088人(同平成13年度1,987人)の乗客を輸送している。宮城県と山形県間を運行する高速バスは、他に山形 - 仙台空港線、仙台 - 酒田線、仙台 - 米沢線(平成14年3月20日より運行)があり、山形県と仙台市間の1日あたりの高速バスによる輸送人員総数は3,571人(仙台空港便を除く)となっている。



高速バス輸送人員の推移



資料：東北運輸局

山形県 仙台間的高速バスの運行状況（平成13年度 - 平成16年度）

		便数 (便)	輸送人員 (人)	1日当たりの輸送人員 (人)
山形 仙台	H16年度	49,369	1,127,211	3,088.2
	H13年度	29,075	725,389	1,987.4
山形 仙台空港	H16年度	4,380	55,702	152.6
	H13年度	2,920	22,693	62.2
酒田・鶴岡 仙台	H16年度	7,500	128,911	353.2
	H13年度	6,525	141,464	387.6
米沢 仙台	H16年度	3,937	47,203	129.3
	H13年度	96	830	69.2

資料：東北運輸局

3 「物」の交流

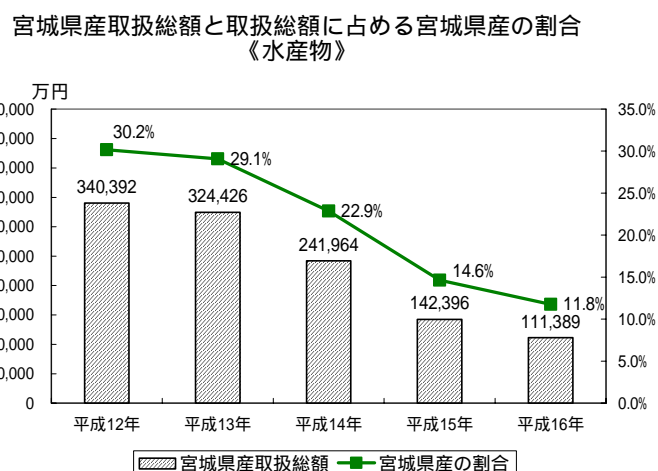
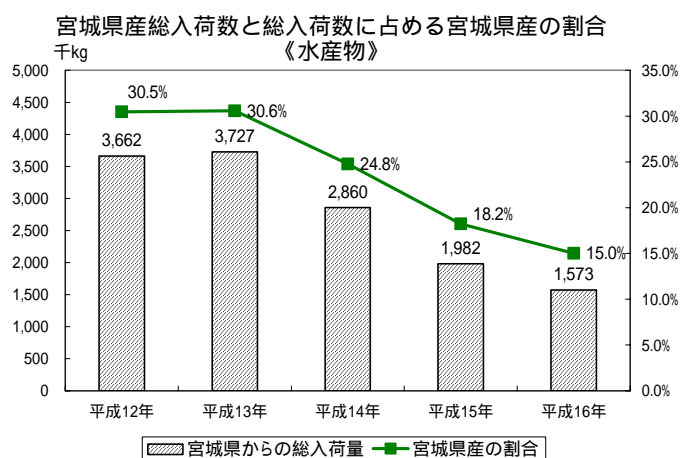
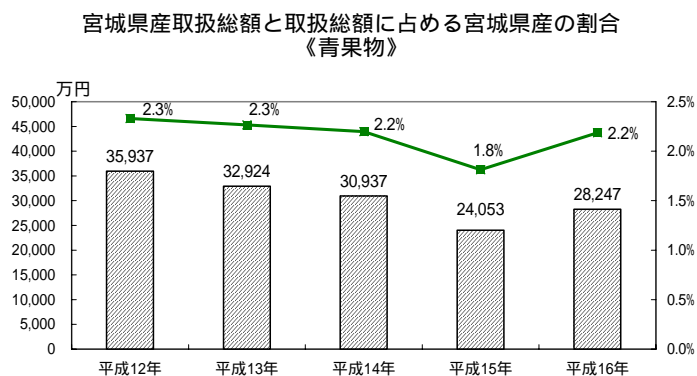
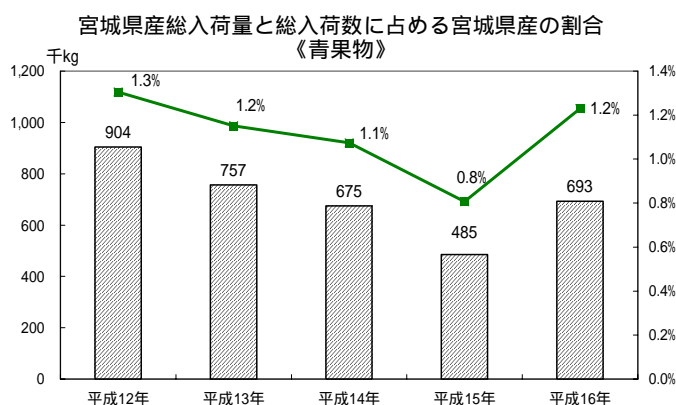
(1) 市場産地別取扱量

平成16年の山形市中央卸売市場における宮城県産品の取扱は、青果物では総数量が692,617kgで、金額は282,474,867円である。山形市卸売市場で取引された青果物総金額のうち宮城県産の割合は2.2%あった。

水産物では、数量では宮城県産が最も多く、また、金額でも北海道に次ぎ2番目に多く取引されており、総入荷金額に占める割合は11.8%となっている。

平成16年の宮城県産取扱量で多かった品目は、青果物では、きゅうり、ねぎ、キャベツで、水産物では練り製品、干魚類、加工食品類などであった。

宮城県産のシェアが高いものは、青果物では、果実びん・缶詰などの加工品が多く、水産物では冷凍さんまやわかめなどが多くなっている。



資料：市場年報（山形市中央卸売市場）

宮城県産品取扱量（H16：上位10位）

(青果物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 きゅうり	203,519	59,051,997	5.7%
2 ねぎ	51,570	16,321,733	5.1%
3 キャベツ	39,710	4,650,389	1.5%
4 ブナしめじ	38,739	25,781,415	9.1%
5 とまと	37,969	14,780,688	2.3%
6 ほうれんそう	29,274	18,349,580	8.2%
7 しゅんぎく	24,005	12,864,411	30.7%
8 山うど	22,342	8,361,537	35.2%
9 こまつな	21,421	11,338,071	14.2%
10 かぶ	13,383	1,389,686	3.1%

宮城県産品取扱量（H12：上位10位）

(青果物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 とまと	159,766	44,668,680	7.6%
2 ほうれんそう	84,806	35,624,619	14.5%
3 ねぎ	82,227	39,259,866	4.9%
4 きゅうり	62,077	18,046,194	1.5%
5 しゅんぎく	53,177	19,961,698	37.6%
6 こまつな	52,797	20,840,030	20.1%
7 ブナしめじ	43,856	31,473,007	10.7%
8 チンゲンサイ	34,401	12,416,116	40.3%
9 かぶ	30,268	3,285,642	5.3%
10 だいこん	27,870	2,470,718	1.0%

宮城県産品取扱量の割合（H16：上位10位）

(青果物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 果実びん・缶詰	810	786,832	85.4%
2 そらまめ	7,264	2,879,996	45.0%
3 パセリ	8,241	9,751,130	42.5%
4 山うど	22,342	8,162,443	35.2%
5 その他野菜びん・缶詰	546	383,166	33.5%
6 しゅんぎく	24,005	12,864,411	30.7%
7 菜の花	9,589	6,187,977	28.0%
8 チンゲンサイ	11,140	5,711,746	21.7%
9 サラダ菜	1,078	675,676	14.9%
10 みつば	8,944	6,182,194	14.3%

宮城県産品取扱量の割合（H12：上位10位）

(青果物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 果実びん・缶詰	1,480	1,496,334	79.3%
2 野菜ジュース	1,340	339,762	60.8%
3 しょうがづけ	552	614,085	50.7%
4 その他野菜びん・缶詰	2,362	1,445,701	50.6%
5 パセリ	12,111	11,408,835	41.0%
6 チンゲンサイ	34,401	12,416,116	40.3%
7 しゅんぎく	53,177	19,961,698	37.6%
8 みつば	21,491	16,722,294	31.6%
9 そらまめ	3,104	712,426	20.9%
10 こまつな	52,797	20,840,030	20.1%

宮城県産品取扱量（H16：上位10位）

(水産物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 練製品	228,836	59,462,465	36.5%
2 その他干魚類	209,495	120,488,867	45.5%
3 その他加工食品類	96,018	59,625,537	15.0%
4 ほたて貝	70,945	43,269,302	62.6%
5 さんま	65,307	17,130,759	32.8%
6 かつお	63,002	26,269,896	29.7%
7 珍味	60,256	42,067,716	36.4%
8 めばちマグロ	57,326	106,070,614	9.2%
9 魚肉缶詰	45,667	29,557,690	59.4%
10 するめいか	36,598	9,364,625	12.8%

宮城県産品取扱量（H12：上位10位）

(水産物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 かつお	315,052	93,086,311	45.3%
2 練製品	298,418	128,740,000	46.3%
3 冷凍食品	280,464	234,139,330	61.3%
4 その他加工食品類	218,140	139,420,407	27.3%
5 筋子	200,593	510,899,888	40.3%
6 塩さけ	141,821	119,899,421	41.0%
7 その他干魚類	135,992	85,557,358	39.1%
8 冷凍えび	110,507	213,011,536	52.9%
9 冷マグロ	103,251	99,022,690	43.9%
10 ほたて貝	89,494	33,956,208	50.0%

宮城県産品取扱量の割合（H16：上位10位）

(水産物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 冷凍さんま	4,412	1,068,250	94.6%
2 わかめ	7,865	3,703,790	66.0%
3 ほたて貝	70,945	43,269,302	62.6%
4 魚肉缶詰	45,667	29,557,690	59.4%
5 塩ほっけ	27,875	13,876,746	55.2%
6 その他干魚類	209,495	120,488,867	45.5%
7 冷凍かれい	27,632	27,375,025	41.9%
8 練製品	228,836	59,462,465	36.5%
9 珍味	60,256	42,067,716	36.4%
10 あわび	1,311	14,540,568	35.1%

宮城県産品取扱量の割合（H12：上位10位）

(水産物)

入荷量 上位10品目	宮城県産		宮城県産 シェア
	数量(kg)	金額(円)	
1 冷凍さんま	4,542	2,641,506	98.1%
2 冷凍あかうお	40,028	22,105,675	92.1%
3 わかめ	22,703	9,600,397	85.9%
4 冷凍あゆ	8,630	10,525,568	85.3%
5 塩ほっけ	59,051	29,983,594	74.4%
6 きちじ	17,038	18,048,463	72.6%
7 冷凍かに	54,284	114,891,604	65.8%
8 ほっけ	7,455	2,603,320	63.5%
9 冷凍ぎんたら	65,699	35,793,547	62.6%
10 冷凍にしん	23,661	5,307,169	62.3%

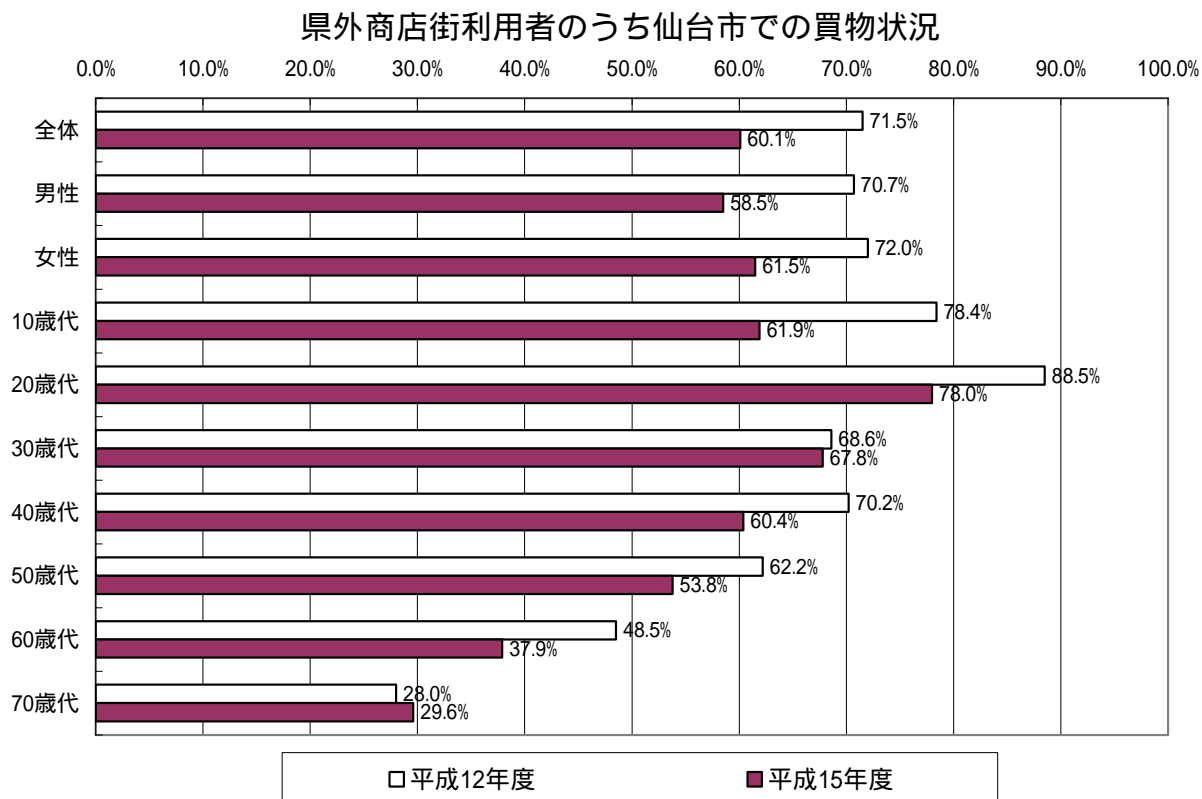
4 サービスの交流

(1) 県外買物状況

平成15年度山形県買物動向調査によると、山形県全体で県外の商店街を利用した人は69.9%であった。そのうち行き先は、福島市17.7%(平成12年13.0%)、新潟市14.5%(同13.0%)、秋田市10.7%(同8.7%)、東京都30.2%(同24.0%)であり、仙台市が60.1%(同71.5%)で最も多い。

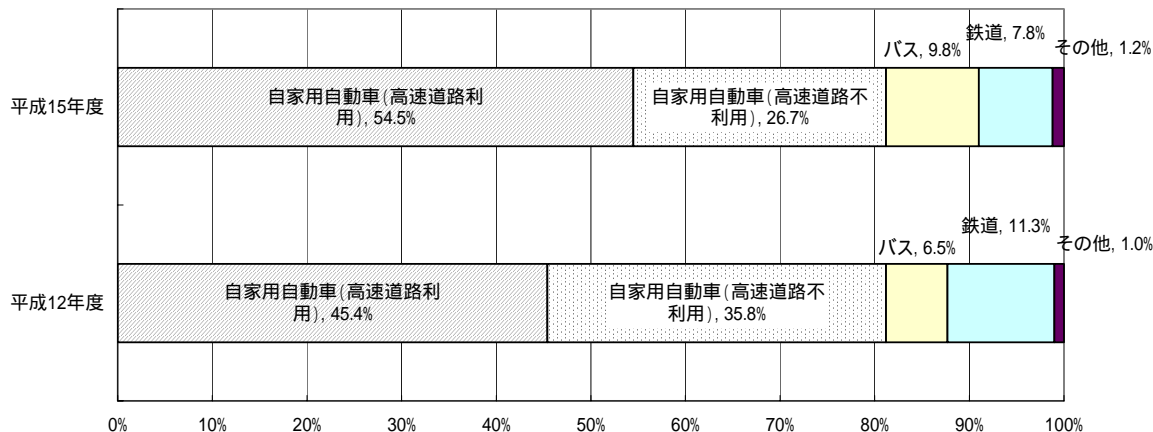
仙台市の商店街を利用した人のうち、年代別では20歳代が最も多く、次いで10歳代、40歳代となっている。

また仙台への買い物に行く際の交通手段は、自家用車の利用割合が高くなっている。



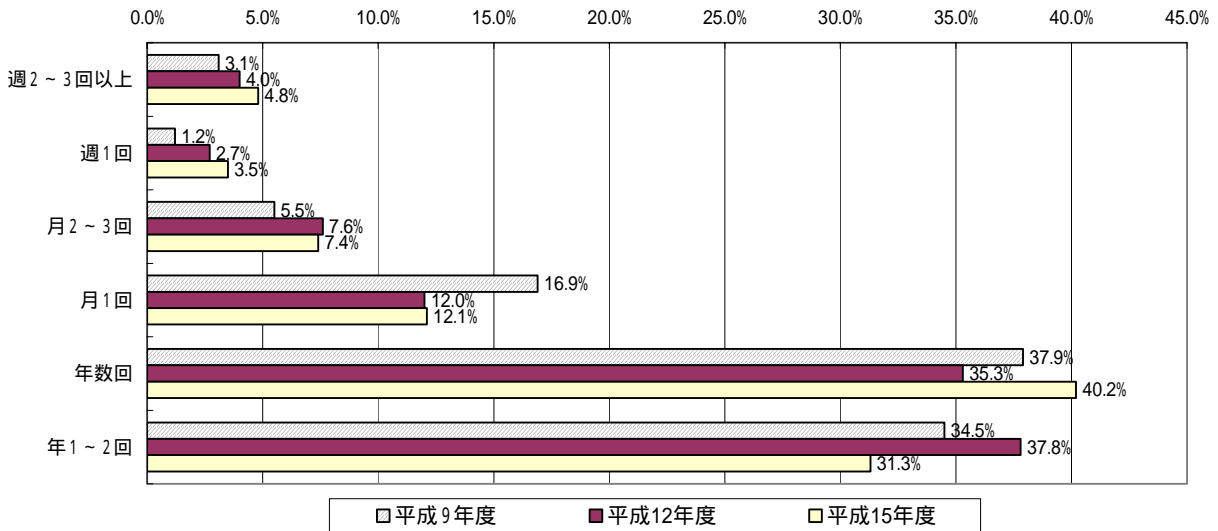
資料：山形県買物動向調査報告書（山形県）

仙台市の商店街に行く交通手段



資料：山形県買物動向調査報告書（山形県）

仙台市の商店街に行く回数割合



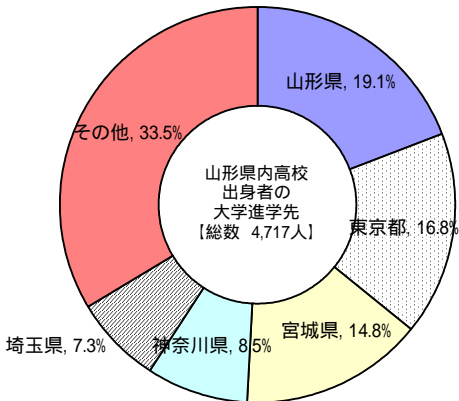
資料：山形県買物動向調査報告書（山形県）

(2) 大学入学者数

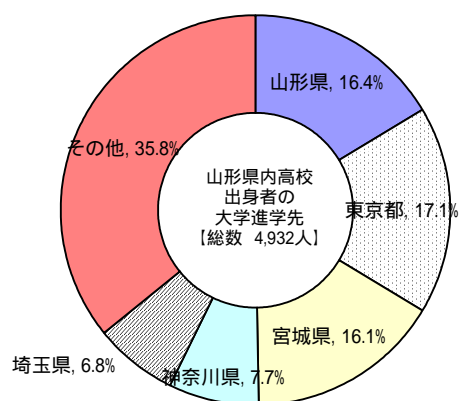
学校基本調査によると、平成16年度に大学に入学した山形県内高校出身者は4,932人で、その入学先都道府県は山形県808人（16.4%）東京都845人（17.1%）宮城県794人（16.1%）であった。

また、山形県内の大学に入学した学生の出身地で最も多いのは山形県808人（30.7%）宮城県469人（17.8%）であった。

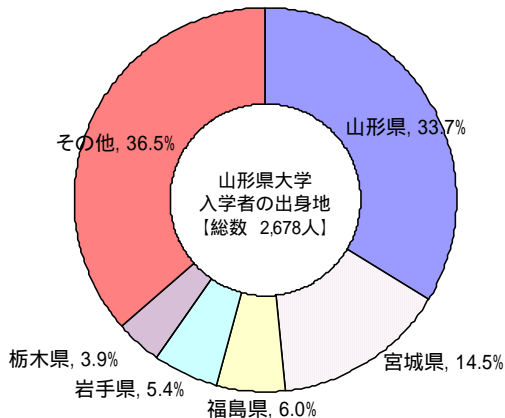
山形県内高校出身者の進学先都道府県（13年度）



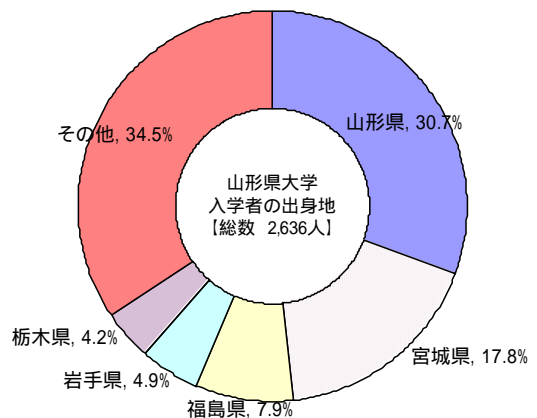
山形県内高校出身者の進学先都道府県（16年度）



山形県大学入学者の出身地（13年度）

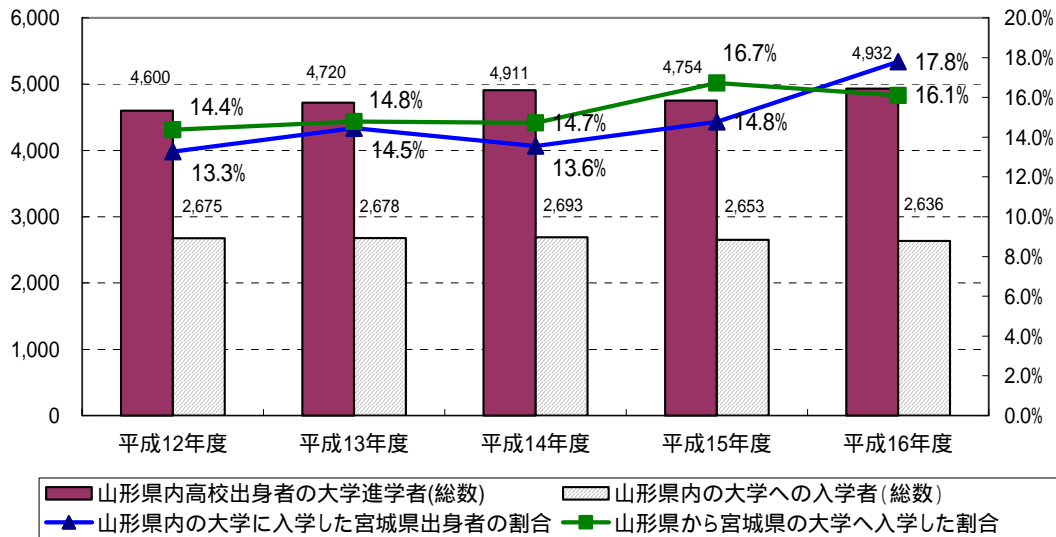


山形県大学入学者の出身地（16年度）



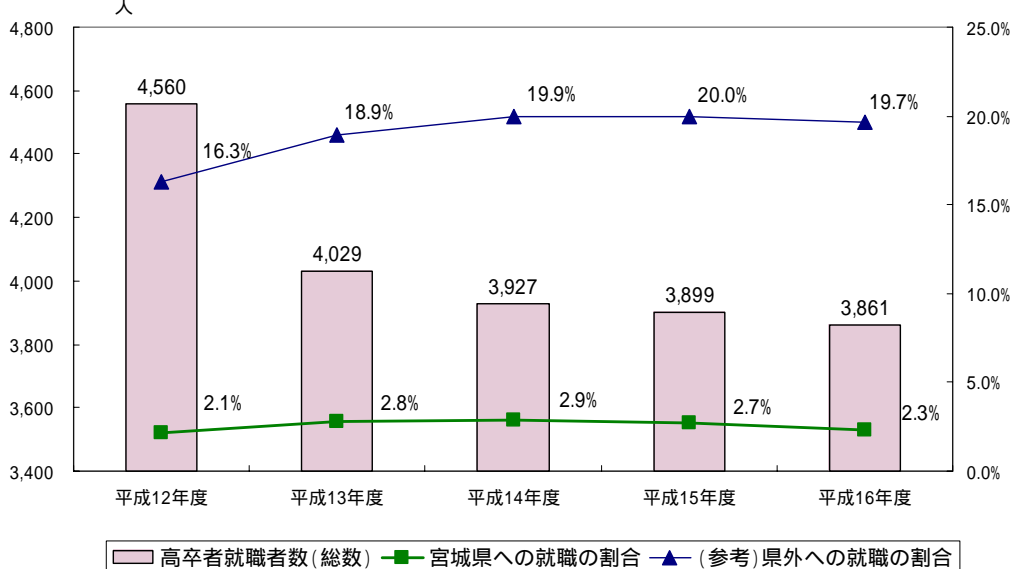
資料：学校基本調査（文部科学省）

人 山形県内高校出身者の進学先及び山形県内大学入学者の出身地の推移



資料：学校基本調査（山形県）

人 就職者総数と宮城県への就職の割合の推移



資料：学校基本調査（山形県）

(3) 学都仙台単位互換ネットワーク

学都仙台単位互換ネットワーク制度は、仙台圏の大学・短期大学・専門学校、合わせて20大学等が、「学都仙台単位互換ネットワークに関する協定」を締結し、これに基づきこれらの大学等に所属する学生が他大学等で開講される科目を履修し、それを所属する大学等の単位として認定する制度であり、平成13年4月から実施されている。

《平成17年度協定締結大学等》()内数字：提供科目数

尚絅学院大学(9)・ 仙台白百合女子大学(38)・ 仙台大学(24)・ 東北学院大学(92)・ 東北芸術工科大学(207)・ 東北工業大学(112)・ 東北生活文化大学(16)・ 東北大学(119)・ 東北福祉大学(28)・ 東北文化学園大学(28)・ 東北薬科大学(8)・ 宮城学院女子大学(86)・ 宮城教育大学(12)・ 宮城大学(28)・ 尚絅学院大学女子短期大学部(4)・ 聖和学園短期大学(20)・ 東北生活文化大学短期大学部(4)・ 宮城県農業短期大学(12)・ 仙台電波工業高等専門学校(29)・ 宮城工業高等専門学校(13)

5 仙山圏における過去の主な地震（観測震度5弱以上）

1926年（昭和元年）以降

発生年月日	名称	観測地点（震度）	
		村山地域	仙台地域
1933. 3. 3	三陸沖		仙台市五輪（5）
1936. 11. 3	宮城県沖		仙台市五輪（5）
1938. 11. 5	福島県沖		仙台市五輪（5）
1964. 6. 16	新潟県沖		仙台市五輪（5）
1978. 6. 12	宮城県沖		仙台市五輪（5）
2003. 5. 26	宮城県沖	中山町長崎（5強） 村山市中央（5弱）	仙台市青葉区大倉 仙台市泉区将監 名取市増田 亘理町下小路 大郷町粕川 大衡村大衡 （以上5弱）
2003. 7. 26	宮城県北部		大郷町粕川（5弱）
2005. 8. 16	宮城県沖		仙台市宮城野区苦竹 仙台市泉区将監 名取市増田 （以上5強） 仙台市宮城野区五輪 仙台市若林区遠見塚 塩竈市旭町 岩沼市桜 亘理町下小路 山元町浅生原 大郷町粕川 大衡村大衡 （以上5弱）

（気象庁データベースより）

6 山形市と仙台市の積雪量の比較（過去30年）

暦年	山形市		仙台市	
	年間降雪量 (cm)	最大積雪深 (cm)	年間降雪量 (cm)	最大積雪深 (cm)
1976年	269	40	47	14
1977年	472	79	115	34
1978年	385	62	85	9
1979年	151	28	32	16
1980年	393	75	83	23
1981年	545	113	141	30
1982年	302	37	53	12
1983年	287	47	64	15
1984年	446	77	148	28
1985年	322	43	103	21
1986年	346	48	67	17
1987年	261	38	81	28
1988年	314	45	54	10
1989年	193	43	37	15
1990年	194	24	24	6
1991年	272	35	62	18
1992年	230	35	105	21
1993年	271	34	42	6
1994年	316	70	44	10
1995年	315	49	34	11
1996年	380	68	55	11
1997年	221	43	79	25
1998年	286	60	104	27
1999年	213	26	22	6
2000年	330	49	37	20
2001年	410	63	135	29
2002年	256	47	31	18
2003年	280	61	42	20
2004年	290	70	38	11
2005年	354	69	110	22

（気象庁データベースより）

7 交通インフラから見た仙山交流年表

年代	事 項
縄文時代	熊ヶ根の野川遺跡で山形から宮城に石器の材料となる石を運んでいたことが判明しており、すでに関山街道ルートが存在していた可能性あり
平安時代 (西暦 927 年)	延喜式において笹谷峠越えルートが官道に指定
鎌倉時代 (西暦 1200 年代)	大江氏が寒河江に駐するに及び、関山に屯所が置かれ、駅路が修理される
江戸時代 (西暦 1600 年代)	関山街道、笹谷街道、二口街道が仙台藩の「西道」と呼ばれる。これらのルートを通った人や物は愛子に集中し、八幡町から仙台に入ったと推定される。この当時の主ルートは笹谷街道であつたらしい。
明治 13 年 (西暦 1882 年)	仙台野蒜港開港にあわせ、山形県令三島通庸の命により関山トンネル開削工事開始
明治 15 年 (西暦 1884 年)	8 月に関山トンネル(旧)完成、以後奥羽本線開通まで物流の主ルートは笹谷街道から関山街道に移る。
明治 23 年 (西暦 1892 年)	鍋越峠越えルート(現国道 347 号)完成
昭和 12 年 (西暦 1937 年)	自動車輸送の増加に伴い関山トンネル改修 この年 11 月 10 日作並・山寺間の開業により仙山線全通
昭和 28 年 (西暦 1953 年)	関山街道が二級国道 110 号仙台山形線として認定
昭和 38 年 (西暦 1963 年)	関山街道が二級国道 110 号仙台山形線から一級国道 48 号に昇格
昭和 40 年 (西暦 1965 年)	関山街道が国道の等級廃止により一般国道 48 号となる
昭和 43 年 (西暦 1968 年)	1 1 月に現在の関山トンネルが開通
昭和 45 年 (西暦 1970 年)	笹谷街道が一般国道 286 号に認定
昭和 56 年 (西暦 1981 年)	一般国道 286 号笹谷トンネルが開通(2 車線) 笹谷経由の山形～仙台都市間バスが運行開始
昭和 63 年 (西暦 1988 年)	1 0 月に山形自動車道 村田ジャンクション～宮城川崎インター間が開通 1 1 月に仙山線 東照宮駅新設
平成 2 年 (西暦 1990 年)	山形自動車道 宮城川崎インター～笹谷インター間が開通
平成 3 年 (西暦 1991 年)	3 月に仙山線葛岡駅新設 7 月に山形自動車道関沢 IC～山形北 IC 間が開通、山形・仙台間がバスで 1 時間圏に

年代	事 項
平成 9 年 (西暦 1997 年)	山形自動車道 村田ジャンクション～笹谷インター間 4 車線化完成
平成 1 0 年 (西暦 1998 年)	山形自動車道 関沢インター～山形蔵王インター間 4 車線化完成
平成 1 4 年 (西暦 2002 年)	山形自動車道 笹谷トンネル及び山形蔵王インター～山形ジャンクション間 4 車線化完成により、村田ジャンクション～山形ジャンクション間の 4 車線化が完了
平成 1 6 年 (西暦 2004 年)	仙台空港アクセス鉄道着工
平成 1 8 年 (西暦 2006 年)	<p>村山地域～仙台地域間を結ぶ各交通機関の運行状況(3月末現在)</p> <p>バス</p> <p>山形自動車道経由 山形～仙台間 1日70往復 山形～仙台空港間 1日 8往復 酒田～仙台間(西川町・寒河江市経由) 1日13往復</p> <p>国道48号経由 寒河江・天童～仙台間 1日 6往復 新庄～仙台間(尾花沢・村山・東根経由) 1日 6往復</p> <p>鉄道</p> <p>J R 仙山線 山形～仙台間 1日18往復</p>
今後の見通し	
平成 1 8 年 (西暦 2006 年)	4月から上山～仙台間の高速バスが1日6往復、村山～仙台間の高速バス(直行便)が2往復開設予定 年内に仙山線に新駅開業予定(東北福祉大学)
平成 1 9 年 (西暦 2007 年)	仙台空港アクセス鉄道開業予定

8 山形と仙台の交流についてのアンケート調査（予備調査）

調査の概要

- ・実施主体：山形県村山総合支庁
- ・調査対象：やまがたファン（村山総合支庁では、平成14年に仙台市在住者を対象として「山形・仙台の交流に関するアンケート調査」を実施し、山形県の観光パンフレットの送付希望者を「やまがたファン」と称し、各種観光パンフレットを送付している。）
- ・調査数：1,165件
- ・回収数：375件（32.2%）
- ・その他：やまがたファンは、一般的な仙台市民と比較して山形に対する興味関心や知識等が高いものと推測される。また、年齢層の偏りやサンプル数の少なさを考慮する必要がある。

調査の結果

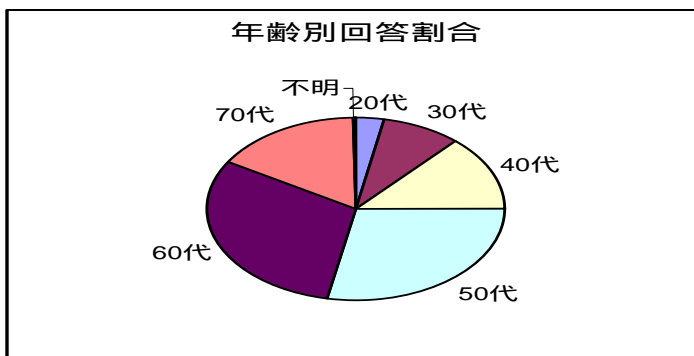
（1）基礎的事項

回答者の状況

《男女別》男性211名（56.3%） 女性164名（43.7%）

《年齢別》年齢毎の回答比率について、50代以上で全体の約3/4を占めており、年齢的な偏りがあるが、一方で、「団塊の世代」及び高齢世代として動向が注目されている層の傾向・知見が得られたとも言える。

年齢	人数
20代	11
30代	33
40代	50
50代	105
60代	115
70代	60
不明	1
計	375

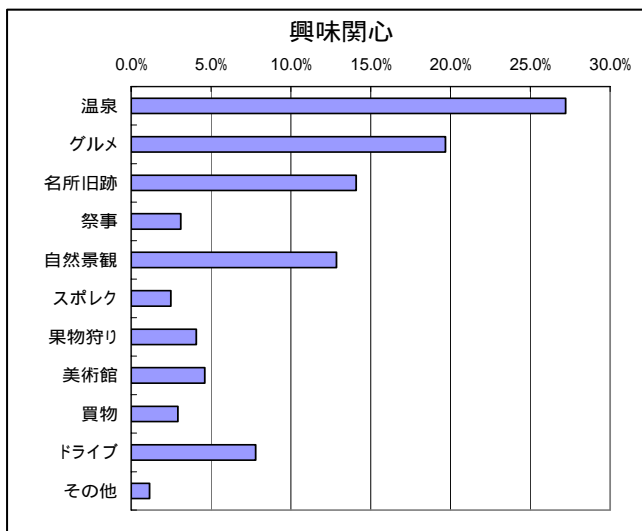


《観光やレジャーに対する興味関心の傾向》

村山地域に限らない一般的な観光やレジャーに対する興味関心の傾向を見ると、「温泉」、「グルメ」に対する関心が高く、「名所旧跡」と「自然景観」がそれに続く。

次項の「村山地域の資源・強み」と対比すると、村山地域が提供できる資源として、「温泉」、「グルメ」、「自然景観」があげられると思われる。

逆に「名所旧跡」については、訪問目的となる割合が低く、必ずしも提供できていない面があると推測される。



(2) 目的事項

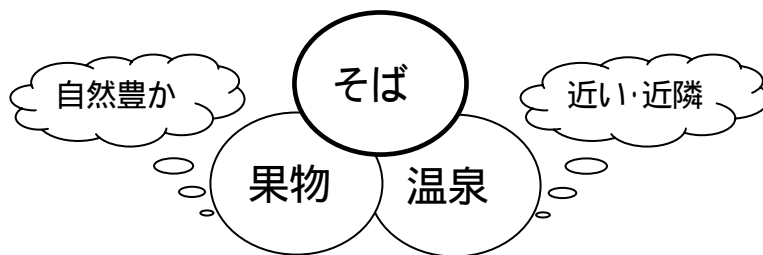
村山地域の資源・強み

《傾向》

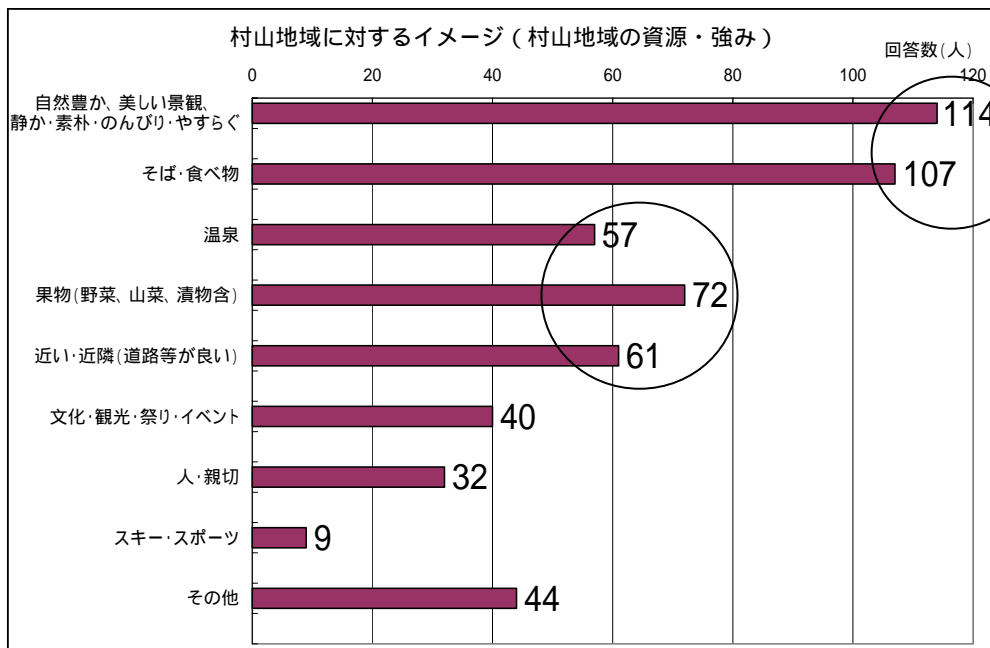
やまがたファンが村山地域に対して持つイメージは、「自然豊か、美しい景観、静か・素朴・のんびり・やすらぐ(114名)」、「そば・食べ物(107名)」が多く、「果物(72名)」、「近い・近隣(61名)」、「温泉(57名)」がそれに続く。【表1】

また、やまがたファンが村山地域を訪問する目的・目当ての上位は、「そば・グルメ飲食(176名)」、「果物(野菜・漬物・山菜含)(122名)」、「温泉(120名)」で、4番手である「教育文化施設・名所旧跡・観光(53名)」を大きく引き離している。【表2】

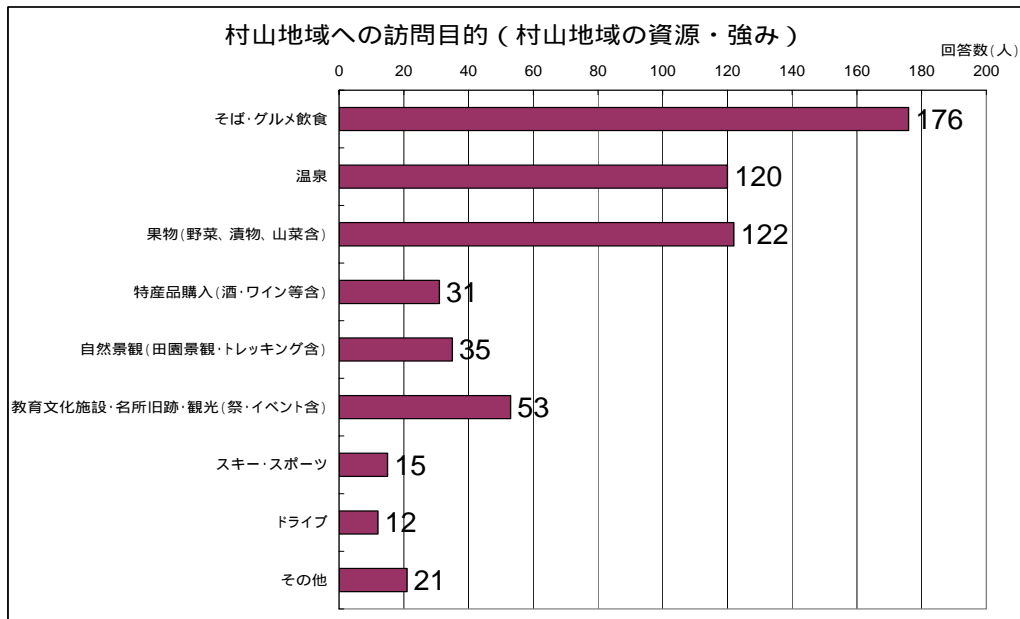
以上の結果から、村山地域が持つ「資源・強み」は、具体的な商品・サービスとしては、「そば」、「果物」、「温泉」であり、地域イメージとして、「自然豊か、美しい景観、静か・素朴・のんびり・やすらぐ」と「近い・近隣」があると考えられる。特に、やまがたファンにとって、「そば」の位置づけが極めて高い。



【表1】



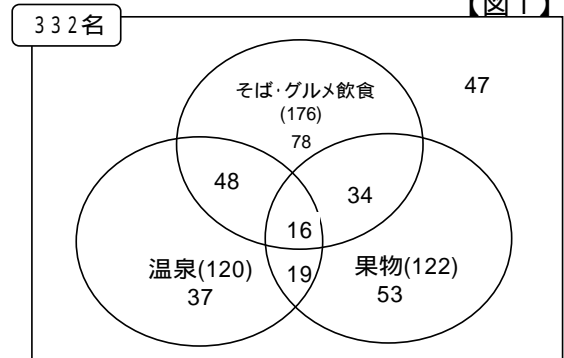
【表2】



【図1】

「そば・グルメ飲食 (176 名)」、 「果物 (野菜・漬物・山菜含) (122 名)」、 「温泉 (120 名)」について、訪問目的の重なり具合を表したのが【図1】である。

「温泉」のみを訪問目的にする方は、「そば・グルメ飲食」の78名、「果物」の53名と比較して、37名と非常に少ない。「そば・グルメ飲食」等と組み合わせて訪問するケースが多いものと推測される。



「村山地域に対するイメージ」と「村山地域への訪問目的」を【表3】によりクロス集計してみると、全体的な傾向と「自然豊か、美しい景観、静か・素朴・のんびり・やすらぐ」の傾向は類似しており、訪問目的を問わず、自然の豊かさ等は地域イメージが定着していると推測される。

また、「近い・近隣 (道路等が良い)」については、全体的な傾向と相違があり、今後分析が必要である。なお、「そば・食べ物」をイメージする層は、「そば・グルメ飲食」を、「温泉」をイメージする層は「温泉」を目的に来訪する割合が高いというように相関関係が確認できる。

【表3】

村山地域のイメージ×目的・目当て

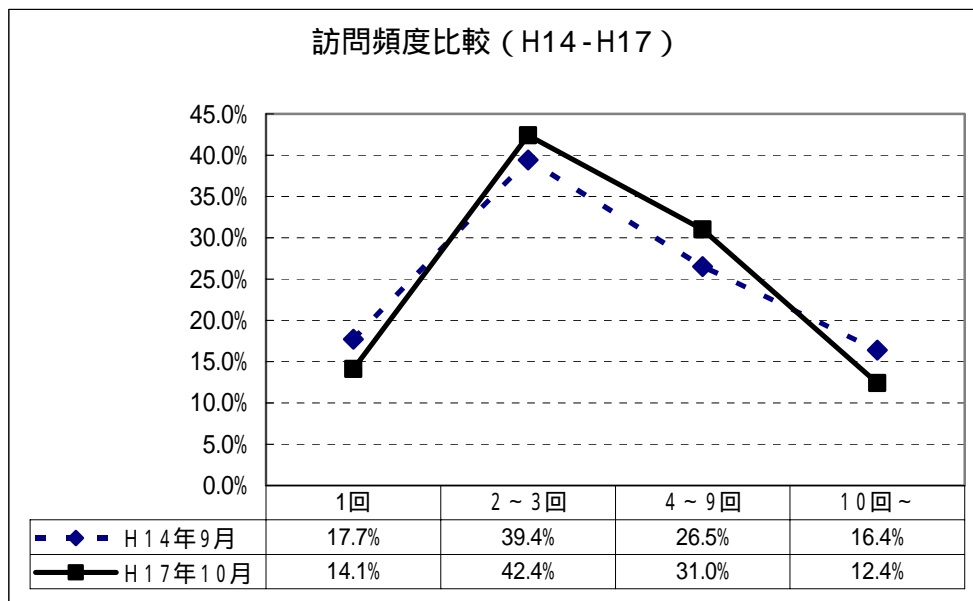
目的・目当て		そば・グルメ飲食	温泉	果物 (野菜・漬物、山菜含)	特産品購入 (酒・ワイン等含)	自然景観 (田園景観・トレッキング含)	教育文化施設・名所旧跡・観光 (祭・イベント含)	スキー・スポーツ	ドライブ	その他
全体	375	46.9%	32.0%	32.5%	8.3%	9.3%	14.1%	4.0%	3.2%	5.6%
自然豊か、美しい景観、静か・素朴・のんびり・やすらぐ	114	48.2%	33.3%	38.6%	7.0%	17.5%	13.2%	3.5%	2.6%	5.3%
そば・食べ物	107	67.3%	41.1%	33.6%	12.1%	8.4%	14.0%	2.8%	1.9%	3.7%
温泉	57	43.9%	66.7%	26.3%	8.8%	10.5%	12.3%	5.3%	3.5%	
果物(野菜、山菜、漬物含)	72	51.4%	30.6%	51.4%	9.7%	9.7%	9.7%	1.4%	5.6%	2.8%
近い・近隣(道路等が良い)	61	50.8%	24.6%	41.0%	8.2%	16.4%	21.3%	4.9%	9.8%	6.6%
文化・観光・祭り・イベント	40	50.0%	45.0%	30.0%	5.0%	20.0%	27.5%	2.5%	2.5%	17.5%
人・親切	32	37.5%	43.8%	56.3%	9.4%	6.3%	12.5%		3.1%	12.5%
スキー・スポーツ	9	22.2%	33.3%	55.6%	11.1%	22.2%		33.3%	11.1%	11.1%
その他	44	47.7%	20.5%	27.3%	9.1%	9.1%	22.7%	4.5%	4.5%	2.3%

過去1年間の訪問回数は、【表4】のとおり2回(25.5%)の割合が最も高く、3回(16.9%)、1回(14.1%)がそれに続く。これは平成14年度に実施した調査と比較してほぼ同様の傾向【表5】と言える。

【表4】

訪問回数		1回	2回	3回	4回	5回	6～9回	10回～
目的・目当て								
全体	290	14.1% 41	25.5% 74	16.9% 49	8.6% 25	13.4% 39	9.0% 26	12.4% 36
そば・グルメ飲食	176	8.0% 14	23.3% 41	14.8% 26	6.8% 12	12.5% 22	8.0% 14	11.4% 20
温泉	120	8.3% 10	20.8% 25	17.5% 21	6.7% 8	10.8% 13	10.0% 12	15.0% 18
果物 (野菜、漬物、山菜含)	122	9.0% 11	25.4% 31	13.1% 16	9.8% 12	9.8% 12	7.4% 9	15.6% 19
特産品購入 (酒・ワイン等含)	31	9.7% 3	6.5% 2	9.7% 3	9.7% 3	19.4% 6	9.7% 3	9.7% 3
自然景観(田園景観・ト レッキング含)	35	5.7% 2	2.9% 1	20.0% 7	11.4% 4	25.7% 9	11.4% 4	14.3% 5
教育文化施設 ・名所旧跡・観光 (祭・イベント含)	53	17.0% 9	28.3% 15	17.0% 9	7.5% 4	13.2% 7	1.9% 1	9.4% 5
スキー・スポーツ	15	6.7% 1	26.7% 4	13.3% 2	6.7% 1	13.3% 2	0.0% 0	20.0% 3
ドライブ	12	0.0% 0	16.7% 2	33.3% 4	8.3% 1	8.3% 1	8.3% 1	16.7% 2
その他	21	4.8% 1	14.3% 3	19.0% 4	9.5% 2	28.6% 6	9.5% 2	0.0% 0

【表5】



村山地域の位置づけ

(ア) 村山地域の競争相手

《傾向》

村山地域の強みと推測され、来訪する目的となる「そば・グルメ飲食」、「温泉」、「果物（野菜、漬物、山菜含）」について、競争相手はどこかという質問を行い、集計したのが【表6】である。

競争相手が思い浮かばない等理由により、回答なし（「空欄（地域内）」）の割合が全体で51.8%であった。回答があったものから想定される村山地域の競争相手は、全般的に県内他地域、特に庄内・置賜両地域の割合が高く、県外には明確な競争相手が見えてこなかった。商品・サービス別に見ると、「果物（野菜、漬物、山菜含）」、「そば・グルメ飲食」、「温泉」の順に「空欄（地域内）」（競争相手なし）の割合が高い。なお、競争相手となる地域数を単純集計すると、「そば・グルメ飲食」が28地域、「温泉」が21地域、「果物（野菜、漬物、山菜含）」が19地域となる（「その他」を除く）。

【表6】

村山地域以外に利用する地域（競争相手）

競争相手		空欄 (地域内)	最上地域	置賜地域	庄内地域	宮城県	宮城県 仙台市	宮城県 仙台市秋保	宮城県 仙台市作並	宮城県 塩竈市	宮城県 利府町
目的・目当て											
全体	332	51.8% 172	10.5% 35	18.4% 61	19.0% 63	1.2% 4	1.2% 4	0.6% 2	0.3% 1	0.3% 1	0.3% 1
そば・グルメ飲食	176	51.7% 91	10.8% 19	16.5% 29	18.2% 32	1.1% 2	1.1% 2	1.1% 2	0.6% 1	0.6% 1	0.6% 1
温泉	120	45.0% 54	12.5% 15	20.8% 25	20.0% 24	2.5% 3		0.8% 1			
果物(野菜、漬物、山菜含)	122	54.1% 66	9.0% 11	19.7% 24	20.5% 25		0.8% 1	0.8% 1	0.8% 1		0.8% 1

競争相手		宮城県 女川町	宮城県 南三陸町	宮城県 新大崎市 (鳴子町)	宮城県 新大崎市 (岩出山町)	宮城県 栗原市 (旧花山村)	宮城県 川崎町	宮城県 蔵王町	宮城県 七ヶ宿町
目的・目当て									
全体	332	0.3% 1	0.3% 1	1.2% 4	0.9% 3	0.6% 2	0.3% 1	0.6% 2	0.3% 1
そば・グルメ飲食	176			1.7% 3	1.1% 2	0.6% 1		0.6% 1	0.6% 1
温泉	120	0.8% 1	0.8% 1	3.3% 4			0.8% 1	0.8% 1	
果物(野菜、漬物、山菜含)	122			0.8% 1	2.5% 3	1.6% 2		0.8% 1	0.8% 1

競争相手		福島県	福島県 福島市	福島県 福島市 土湯温泉	福島県 相馬市	福島県 会津若松市	福島県 喜多方市	福島県 北塩原村 (裏磐梯)	福島県 桧枝岐村	秋田県	秋田県 北秋田市 (旧阿仁町)
目的・目当て											
全体	332	2.1% 7		0.3% 1	0.6% 2	0.6% 2	0.6% 2	0.3% 1	0.3% 1	0.3% 1	0.3% 1
そば・グルメ飲食	176	2.3% 4		0.6% 1	0.6% 1	1.1% 2	1.1% 2	0.6% 1	0.6% 1	0.6% 1	0.6% 1
温泉	120	2.5% 3		0.8% 1	1.7% 2		0.8% 1	0.8% 1			
果物(野菜、漬物、山菜含)	122	2.5% 3		0.8% 1		0.8% 1	0.8% 1				

競争相手		岩手県	岩手県 盛岡市	岩手県 一関市	岩手県 花巻市	岩手県 西和賀町 (旧沢内村)	岩手県 三陸地方	青森県	その他
目的・目当て									
全体	332	0.6% 2	0.3% 1	0.6% 2	0.6% 2	0.3% 1	0.3% 1	0.3% 1	1.8% 6
そば・グルメ飲食	176	0.6% 1		1.1% 2	1.1% 2	0.6% 1	0.6% 1		1.7% 3
温泉	120	0.8% 1	0.8% 1	0.8% 1	1.7% 2	0.8% 1	0.8% 1		2.5% 3
果物(野菜、漬物、山菜含)	122	0.8% 1	0.8% 1		0.8% 1		0.8% 1		

(イ) 村山地域を選ぶ理由(基準)

《傾向》

村山地域を選ぶ基準は、全体として、「近い・交通の便」(38.3%)の割合が最も高く、「品質・おいしい・新鮮」(18.7%)「そば」(12.7%)がそれに続く。村山地域が持つ「資源・強み」と推測される「そば・グルメ飲食」、「温泉」、「果物(野菜、漬物、山菜含)」について見てみると、各項目ともに全体的な傾向と同様、「近い・交通の便」の割合が高く、「品質・おいしい・新鮮」及び各商品・サービスがそれに次いでいる。また、その他の傾向として「種類が多い・多様性」の割合が比較的高いのが目に付く。【表7】

【表7】

村山地域を選ぶ基準(競争相手との相違点)

選ぶ基準		近い交通の便	そば	果物野菜漬物	温泉	品質おいしい新鮮	安い	評判がいい
全体	332	38.3%	12.7%	9.9%	8.7%	18.7%	4.2%	1.5%
		127	42	33	29	62	14	5
そば・グルメ飲食	176	40.3%	21.0%	7.4%	7.4%	24.4%	5.7%	1.7%
		71	37	13	13	43	10	3
温泉	120	46.7%	15.8%	10.0%	20.8%	15.8%	4.2%	1.7%
		56	19	12	25	19	5	2
果物(野菜、漬物、山菜含)	122	37.7%	9.0%	16.4%	5.7%	26.2%	4.1%	1.6%
		46	11	20	7	32	5	2

選ぶ基準		種類が多い多様性	親しみ親切馴染み	自然豊か	観光地	ドライブ	その他
全体	332	9.6%	7.5%	4.2%	1.5%	2.4%	5.4%
		32	25	14	5	8	18
そば・グルメ飲食	176	11.4%	6.3%	4.5%	1.7%	0.6%	3.4%
		20	11	8	3	1	6
温泉	120	11.7%	9.2%	3.3%	1.7%	1.7%	2.5%
		14	11	4	2	2	3
果物(野菜、漬物、山菜含)	122	13.1%	6.6%	4.1%	0.0%	3.3%	3.3%
		16	8	5	0	4	4

【表8】

単独目的の場合の選ぶ基準

選ぶ基準		近い交通の便	品質おいしい	種類が多い多様性
全体	332	38.3%	18.7%	9.6%
		127	62	32
そば・グルメ飲食	78	30.8%	24.4%	6.4%
		24	19	5
温泉	37	43.2%	5.4%	10.8%
		16	2	4
果物(野菜、漬物、山菜含)	53	30.2%	18.9%	9.4%
		16	10	5

村山地域のイメージと訪問目的の相関関係【表3】を見ると、村山地域が「近い・近隣」とイメージしている方の訪問目的で「温泉」の割合が低い傾向にある一方、【表7】及び【表8】を見ると、「温泉」に関し村山地域を選ぶ基準で「近い・交通の便」をあげる割合が高いという結果が出ている。

9 「仙山交流連携課題検討懇談会」について

1. 設置の趣旨

村山総合支庁が、山形県村山地域と宮城県仙台地域の交流連携強化を図る事業指針とすることを目的に、平成17年度に策定する「仙山交流ビジョン」について、より具体性・実現性が高い内容とするため、村山・仙台両地域の有識者から仙山交流のあり方に関する意見・助言を得るものである。

2. 検討事項

「仙山交流ビジョン」の策定および仙山交流の推進に関する必要な事項

3. 構成

懇談会は、仙山両地域の民間有識者、学識経験者8名及び村山総合支庁職員3名（総合支庁長、総務企画部長、産業経済部長）の計11名で構成し、事務局を村山総合支庁総務企画部企画振興課に置いた。

（民間有識者名簿：アイウエオ順）

氏名	役職
板垣 宮雄	ヤマザワ代表取締役専務
熊本 均	荘銀総研研究開発グループ主任研究員
桑島 誠一	山形新聞社論説委員
鈴木 素雄	河北新報山形総局長
高橋ゆき江	お駒会（天童温泉おかみ会）会長
宮原 育子	宮城大学事業構想学部事業計画学科助教授
水鳥川和夫	東北芸術工科大学情報デザイン学科教授
横山 英子	楽天イーグルスを応援する女性の会副会長兼事務局長

4. 検討経過

第1回懇談会（平成17年9月13日）

- ・推進分野の柱立てについて
- ・推進施策について

第2回懇談会（平成17年11月10日）

- ・仙山交流ビジョン（案）について

第3回懇談会（平成18年2月27日）

- ・仙山交流ビジョン（案）について